

地域との連携を目指した新たな取り組みとコロナ禍における介助方法の発信

日本大学文理学部社会福祉学科 日大パレット

並木 理紗、成嶋 セルジオ正章、溝口 虎市、小澤 保菜美

(地域の輪 地域との連携 多世代交流)

1. 目的

■コロナ以前→「椎の木」と「アトリエしいのみ」の活動を通して、特別養護老人ホーム「上北沢ホーム」の利用者の方や職員の方、日大パレットの活動サポーターの方々と交流し、全員で四季を感じ、利用者の方には、昔を思い出すような懐かしく、心地よい時間を過ごしていただいていた。また、施設生活では難しい体験を学生と行うことなどを通して、QOL向上を図ることも目的としていた。

■コロナ禍→このような状況下でも季節を味わう機会を提供するために、間接的な繋がりを感じることができる企画を考え、楽しんでいただくことを目的として活動を行っている。

今年度は新たな取り組みとして、日大パレットと福音寮「ぼっぼちゃんひろば」が連携をする“コラボレーション企画”を行った。地域との連携・地域の輪を広げていく事を目的としている。

2. 実践内容

■コロナ以前の実践内容

- (1)椎の木：地域の民家に上北沢ホームの利用者の方々を招待し、季節に合わせた活動や午後のひと時を楽しむ活動。(1月双六大会、5月鯉のぼり作り、8月かき氷、ところてん作りなど)
- (2)アトリエしいのみ：上北沢ホーム内で、季節の草花を題材とした絵手紙を楽しみながら描く活動。
- (3)桜麗祭：日本大学文理学部の学園祭である“桜麗祭”に利用者の方々をお招きし、雰囲気味わっていただく活動。

■コロナ禍での実践内容

- (1)桜麗祭：今年度はオンラインでの開催となり、「コロナ前、コロナ禍での障害のある方への介助方法」の紹介動画を作成し、積極的に手を差し伸べて欲しい、ということを発信した。
- (2)オンライン会議の活用：企画の考案、今後の活動の方向性について打ち合わせを行っている。近況報告や雑談も行うことで、学生同士の大切な交流の時間にもなっている。
- (3)折り紙企画：各月の行事や四季に合わせた折り紙を折り、装飾をして上北沢ホームへ送る活動。作品は面会室やホーム内に飾っていただいている。
- (4)コラボレーション企画：福音寮ぼっぼちゃんひろば(乳幼児さんとご家族の方の居場所)の利用者の方々と上北沢ホームの利用者の方々が製作物を送り合うことで、作品を通じた交流を行う活動。

3. 結果

「椎の木」「アトリエしいのみ」の活動は、どちらも利用者の方々に季節を感じていただけていた。また、「椎の木」の活動は、調理方法や日本の四季折々の行事を、利用者の方との会話やサポーターの方との準備から、学生が学ぶ機会にもなっていた。

桜麗祭の動画作成は、大学での学びやそれぞれの経験・知識を活かし、社会に介助方法の発信をす

